

第4回大阪市中学校給食検討会議要旨

- 1 日 時：10月3日（金）14：30～17：30
- 2 場 所：大阪市役所地下1階 第5共通会議室
- 3 出席委員：

藤原 政嘉	大阪青山大学健康科学部教授
浅香 策雄	大手前栄養学院管理栄養学科教授
滋野 由紀子	大阪市立大学経済学部准教授
窪田 透	大阪市中学校長会代表
玉井 得雄	教育次長
沼守 誠也	指導部長
荻野 哲男	教務部長
- 4 会議次第
 - 開会
 - 議事
 - 報告
 - (1) 中学校給食未実施校の昼食の現状等について
 - (2) 昼食提供事業アンケート結果速報について
 - (3) 他都市（高松市）の中学校給食実施状況視察結果について（概要）
 - (4) 食生活等に関するアンケート結果速報について
- 5 議事等要旨
 - 報告 (1) 中学校給食未実施校の昼食の現状等について（報告・意見聴取）

第3回中学校給食検討会議において、前回の会議では、本年3月末に学校給食を廃止し、昼食提供事業を4月から実施している12中学校のうち、4校より4月からの昼食実態の報告を受けたが、今回の会議では、給食を実施していなかった中学校のうち、3校の校長から現在の昼食実態について報告を受けることとしている旨、大平教務部担当係長から説明。

（桜宮中学校 八田校長より報告）

本校では、本年9月から昼食提供事業を実施している。本校の状況については、飲食店を経営、または飲食店に勤務されている方が多い。深夜まで勤務されておられることで朝のお弁当作りが困難なご家庭がある。また、そのような中で、3時間目から昼休みにかけて保護者がお弁当を持ってくるといった状況がある。多い時では10名程度の方が持ってくる。弁当を持たせたいというご家庭は多い。

昼食提供事業の利用状況については、利用する子どもがどういう子どもたちかということで分析すると、利用者は固定化している。これまで実施した12日間で見ると、延べ27名の利用のうち、12日中、10日以上利用している子どもは、1年生で2人、2年生で4人、3年生で1人

で合計7名であり、これらの生徒は、だいたい12日全て購入している。ほとんど飲食店経営者の子どもたちである。本当に必要な生徒が購入している状況であり、利用者数こそ少ないが、本校ではそれなりに意義のある事業だと思う。

1ヶ月実施した時点での課題としては、大きく分けて3点ある。まず1点目について、初めに登録を行い、注文をし、お金の振り込みをするといったことで、非常に煩雑な手続きとなっている。利用したくてもできない状況があることから、生徒は、コンビニで昼食購入をする場合もある。なんとか今の方法を簡略化してもらえないか、といった思いがある。加えて、事業の流れに対して学校も生徒・保護者もお互いに不慣れであることから、いくつか小さなトラブルも生じている。申し込み手続きが簡略化されて欲しい。

2点目は、教員の負担が非常に大きいことである。本校では担任を持っていない教員には全員、昼食の受け渡しを手伝ってもらえている状況であるが、受け渡しの流れが煩雑であり1名での対応は無理である。10個程度の申し込みでも教員が2、3名で対応している。販売が軌道に乗り、一日に30個から40個程度受け渡しするようになれば、教員だけの力では非常に困難だと考えている。また、4時間目に体育の授業があるクラスでは、着替えが終わってから弁当を取りにくるので、対応する教員は30分以上も受け渡しのために時間を割いている状態となってしまう問題である。3点目として、本校ではお弁当の容器の返却時には、教員の見守りは不要ではあるが、これも、校内の状況が悪くなれば、返却時の見守りも必要になるだろうし、そうなれば、現在のかたちでは難しくなってくると思う。弁当内容は、バラエティに富んでおり、変化もある。配膳員等のことを含め一定の改善をしていただきいと思えるし、そうなれば利用数も増え、また、こちらからも積極的に勧められると思う。

(南中学校 紀井校長 報告)

本校は非常に小規模な学校であり、全校で133名、1年1クラス、2・3年は各2クラスの合計5クラスの学校である。その中で家庭からの弁当持参率は70～80%、日によって異なるが、10名から20名の生徒については正午前後にお弁当を持ってきてもらう状態であり、登校途中にコンビニなどで購入してくる生徒が20%から30%といった状況である。買い忘れや代金を持ってくるのを忘れた生徒については、教員が昼食時に付き添って昼食を買いに行ったり、教員が代金を立て替えて同様に付き添って買いに行くといった対応をしており、昼食については特に支障は出ていない。昼食提供事業については、本校では10月14日から実施予定である。課題としては、教員の負担増が最大の問題だと思う。弁当を受け取り、その個数をリストで確認し、また、温蔵庫の鍵を開けたりなど、手間がかかる。本校では、その作業を教頭が行うこととなっている。昼食時に弁当を渡す時は4時間目が空いている副担任の中でローテーションを組んで行う予定だが、対応者が一人だけしかいないといった時には校長や教頭も対応しなければ、本校のような小規模校では対応できないと考えている。

また、先日行われた試食会では、ご飯の量が課題となった。中3の男子と中1の女子ではご飯を食べる量が当然異なることから、量の調整をなんとかして欲しいといった申し入れを行ったが、現在の状況では難しいとのことであった。昼食提供事業が開始されれば、ご飯が余ってもつたないとか、逆に、足りなくて困るといった、そういう声が出る懸念はある。

(住吉第一中学校 大倉校長 報告)

本校では、ランチサポート事業を開始して2年が経過している。もともと試行のかたちで実施した。弁当業者である「ほっかほっか亭」が昼食を提供している。開始前は、お金を持たせることや、業者が提供すること、栄養面における心配はあった。注文から受け渡しまでの流れについては、朝に業者が来校し、生徒から注文を受け、お金を受け取り、昼時に弁当を持ってきて、後にお弁当ガラを回収しにくるといったものであり、1日に3回、来校してもらっている。教員には一切負担が無いような仕組みになっている。なお、本校では、弁当持参率は80%程度であり、平均して10%程度の生徒が業者弁当を利用している状況である。週の初めは家庭からの弁当持参が多く、週末になると業者弁当への注文が増加する傾向にある。

また、本校は運動部が盛んであり、朝練習の時には保護者の弁当作りが間に合わないこともあり、この「ホカ弁」で間に合わせるといった状況もある。値段については350円からであるが、幕の内弁当などの高額なものはメニューから外している。メニューは10種類から選択できることとなっており、プラス100円で大盛りも選べる。注文者のうち、約20%程度がこの大盛りを注文しているようである。課題としては、栄養面と考えている。本校ではパン販売も実施されており、当初は競合を心配したが、現在は一定、共存している状態である。本校の昼食については、特に大きな問題はない。

(2) 昼食提供事業アンケート結果速報について

給食を実施していた12中学校での昼食提供事業は、開始後6ヶ月が経過している。昼食提供事業の課題を明らかにし、検証を行うほか、事業改善にも活かすため、12中学校の2年生全員とその保護者、そして教職員全員の合計約2800人を対象にアンケートを行った。回答状況については、12中学校全体で、生徒は、90.3%、保護者は62.7%、教職員は64.0%であり、利用状況やその理由、食味、分量、良いと思う点、改善を求める点や申し込み方法などに対する回答状況について、深見学校保健担当課長代理から説明。

(3) 他都市（高松市）の中学校給食実施状況視察結果について（概要）

9月16日に実施した高松市への視察結果概要について報告。

高松市へは、荻野委員とともに、高松市立木太北部小学校及び玉藻中学校を視察。高松市の中心的な実施手法である、近隣の小学校で調理し

た給食を中学校に配送する、いわゆる親子方式について、小・中学校間の配送状況、配膳室の整備状況、配膳状況、生徒の喫食状況などについて視察したこと及びその模様の詳細について、大平教務部担当係長より報告。

また、千葉県船橋市への視察については、調整の結果、同じ自校調理方式での選択制給食を実施している千葉県松戸市への視察に変更することとし、10月8日に視察を実施すること、さらに、翌9日に千葉市への視察を行う予定であること並びに次回会議にて、両都市の視察結果と、これまで実施した各都市視察結果の考察等を含めて報告予定である旨、あわせて報告。

(4) 食生活等に関するアンケート結果速報について

本年7月に実施した、食生活、食習慣、中学生の昼食の実態、中学校の昼食に関する意識、中学校給食に関する意向に係るアンケート調査について、単純集計としての速報値を報告。実施状況については、市民、児童、生徒、保護者、教員の合計19,587人に対して行い、17,111人から回答を得、回答率については87.4%であった。中学生の昼食に対する希望や、中学校給食の実施やその賛成・反対理由、また、実施方法の希望などへの回答状況について、藤巻学校保健担当課長から報告。

6 閉会